

# 核兵器廃絶宣伝行動

鹿行平和委員会 関口 正司

8月21日、平和委員会鹿行ブロック会議が開催されました。県の要請を受けて鹿行全域を宣伝行動することになりました。

また、10月6日には、新核兵器廃絶署名行動を潮来のスーパー・セイミヤさん前で行い、今年度の総会は、12日に行うことにしました。

宣伝行動については、神栖、民商班は、旧鹿島郡区を受け持ち区域として宣伝することになりました。

民商の宣伝カーを借りて県委員会で作成されたテープで全域を流し宣伝しました。

9月25日は、神栖・波崎地域で3時間、34キロ

26日は、神栖地域で3時間、40キロ

27日は、神栖・波崎地域で、45キロ

30日は、神栖・鹿島・大野・大洋・鉾田で5時間、104キロを宣伝しました。



関口さん、宣伝カーから

広範囲のため、路地裏宣伝や辻演説もできませんでしたが、ほとんど、宣伝カーが走ることがない地域だけに、あちこちで「おやなんだろう」と振り向いたり、立ち止まったり手を振ってくれたりしていました。

10月6日に行う予定だった署名行動は、9日に変更となりましたが、午後6時から10人が集まり、1時間で134筆の署名と独自ビラ約300枚を撒くことができました。

暗がりでの署名にもかかわらず、重い買い物を手にしながらかく署名に応じてくれ、ご苦労様と声をかけてくれていました。

潮来は、他の地域と比較して、日頃の運動の積み重ねもあって、市民の皆さんの反応も快く感じました。

# 秋空の下

## 100 kmにわたって宣伝

美和・緒川平和の会事務局長 小室 道夫

宣伝カーの引継ぎで、多少問題もありましたが、美和・緒川平和の会として、山口氏と二人で計画通りその責任を果たすことができました。

美和から緒川、100 kmにわたっての宣伝は、稲刈り最中の農民たちが、手を休んで聞き入ってくれたり、又、手を振って迎えてくれる小学生もありました。「憲法を守り生かすこと、その声を国会に届けてくれる議員を送り出しましょう」というスピーカーからの声は、秋空の下、響き渡りました。

当日の行動ではありませんが、憲法を守る運動の中で特に二人の言葉が強く心に残りました。

〇元自衛隊員

「憲法を改正するなんて、もっての外。憲法九条は勿体ない。自衛隊員がイラクで一人も殺されなかったのは九条のおかげです」と。

私は、改正論者だと思っていましたが意外。

〇太平洋戦争でラバウルに送られ、九死に一生を得た86才の方

「27～8名の小隊で生きて帰国できたのは7名。マラリアと食料不足だ。アメリカ兵の攻撃で山へ逃げる途中、マラリアに罹った私は上官から、これで死ぬ、と手榴弾を渡された」

この時ご本人は、体をわなわな震えさせ、涙声になってしまいました。又、軍馬の小便を飲んで命を長らえたとも。

私の実兄も、義勇軍を志望し、中国安東で18才で亡くなりました。亡くなる前、やっと書いたと思われる弱々しい字で、「一度故郷へ帰りたいかった。そして両親に孝行をしたかった…」と。

悲惨な戦争を二度と繰り返さないために、生命ある限り微力ながら平和運動に力をつくしたいと思います。

# きのこ汁を囲む秋のつどいにご参加しませんか！

と き 10月25日(土)午前9時集合 雨天決行  
内原町中央公民館集合

と ころ 城里町(旧七会村徳蔵)  
野外活動センター山びこの郷  
Tel : 0296-88-3157

参加費 1000円(高校生以下無料 缶ビール付)

主 催 内原・友部平和の会

連絡先 0296-78-3365(川井)

029-259-3810(谷津)



日頃のお仕事や平和運動の合間に、みんなで楽しいキノコ汁を囲むつどいを計画しました。

秋のお楽しみはキノコ汁に手打ちうどんという趣向で企画しました。キノコ汁の中にみんなで作った手打ちうどん(太め・細め自由)やスイトンを入れて食べながらの歓談。会場の近くでキノコ採りをします。キノコ博士の川井さんが、キノコ採取の講義をしてくれます。



## 平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

No.514  
月3回発行  
2008.10.15



# いまこそ声高に！！

## 『軍事費削って暮しに廻せ』

くきざき平和の会 大滝 修

オスロプロセス発効(12月に)によりクラスター爆弾は禁止される(一部を除き)ことになったが、防衛省は代替兵器の開発予算を要求する旨であることが報じられている。外敵侵略を防ぐための水際作戦の名のもとに、これまで276億円もかけクラスター爆弾が保有されてきたこと自体、必要と有効性を疑うものだが、更にこれの廃棄に200億円もの税金が投じられる上、代替兵器まで要求に至っては、残虐性ゆえに禁止を求めたオスロプロセスの主旨を踏みにじるものだ。軍事産業にとってはまさに作っては儲け、壊してはまた儲ける。そしてもっと殺傷能力の高いものを作れとお土産までつく「おいしい仕事」と言わざるを得ない。そのほかイージス艦(6隻、総調達費7000億円)にしても、総重量50トンの九〇式戦車(330両、3000億円)にしても冷戦時代の対ソ戦を想定した兵器ないしはアメリカとの軍事一体化のための兵器。九〇式戦車などは重すぎて本土では使



自衛隊 90 式戦車

えず、北海道のみに使用が限定されるという軍事効率上ですら疑問符のつくしろものだ。今年二月には開発費484億円をかけた次世代新戦車(TKX)なるものが公開されたが一両十億円もかかると言われている。日本を侵略する国がどこに存在し、こんな戦車が果たして必要なのだろうか。このように軍事費は仮想敵と、より殺傷力の強い高性能のものを求め絶え間なく拡大し、歯止めがない。戦後63年、平和憲法を持ちながらこの国の施政者達はアメリカの要求するがままに警察予備隊から保安隊を経て、自衛隊という「軍」にまで膨張

させ、今や日本の軍事費は年間5兆円、世界第5位の軍事大国になった。格差社会のもと年収200万円以下の不安定雇用にあえぐ人が1000万人に達し、医療や福祉のセーフティネットが切り捨てられ、物価の上昇と株価の暴落で国民生活が不安にさらされている今、何ひとつ国民生活に役立たない軍事費こそ最大の無駄。「軍事費削って暮しに廻せ」の声を大きく上げることは緊急の課題になっているのではないか。

## 日本平和委員会 関東ブロック会議 参加報告

常任理事 加藤 岑生

10月4日(土)2:30~10月5日(日)正午まで神奈川県横須賀市ヴェルク横須賀で東京、神奈川、千葉、茨城、栃木、群馬の各県の代表が参加して交流会がもたれました。茨城からは水野、山口代表理事、伊達事務局長、私が参加しました。

原子力空母ジョージ・ワシントンが9月25日に入港し、配備反対の立場から新しい運動をどう展開したら良いかとの問題意識から交流会に先立って公開学習会「原子力空母母港化がもつ重大な危険を2つの角度から検討する」が開かれました。当日は原子力空母母港化の可否を問う住民投票を求める条例制定を求める住民運動をしてきた横須賀の市民100名近で会場いっぱいの立錐の余地ない参加でした。

講師の国際問題研究者・日本平和委員会理事の新原昭治さんは前日アメリカ国立公文書館の訪米調査から帰ってきたばかりで疲れも見せず精力的な講演でした。

講演内容は近代の戦争史の中で空母の果たしてきた役割と変遷にふれ、最近のアフガニスタンでの爆撃作戦の主役も米空母の艦載機群によるもので住民に甚大な被害を与えるようになってきている。米軍兵はゲーム感覚で戦争をし、被害には全くと言っていいほど知らされていない、知ることもできない。これを可能にしているのが原子力空母による地上への空爆作戦であると。また、原子力空母の重要な特徴として「母港にいる時が一番危険な状態で敵地にいる時攻撃されない。」何故なら破壊された原子炉からの死の灰の被害と被爆を受けるからである。まさに3000万の首都圏住民はこの危

険に曝されるのであると。

また、かつての原子力潜水艦寄港をめぐる日米交渉の際のアメリカの豊富な外交文書をもとに原子力空母母港化の「安全」確認を放棄した従属的な外交姿勢を糾弾し、日本国政府が全く国民の安全を確認する立場でなく先に寄港ありであったことを明らかにした。今回の寄港についても全く変わらないと。

講演終了後、多数の質問がこれまでの運動の実践を背景にして質問が多数出さ意見交流が行われました

その後各県から参加している平和委員会のメンバーで関東ブロックの交流討論会を行いました。一日目は各県の基地闘争の現状について報告が、2日目は仲間作りについて交流しました。このことについては次回に報告します。



茨城での活発な活動を報告



真剣な面持ちの会議参加者

**事務局便り**  
先日、事務局員の若い二人が事務所の片づけ。少しでも居住性を良くしようと。感心！そういえば今年の夏から平和会館内の引越越し。1階玄関入口から水戸新婦人が奥に、代わって茨商連が2階から。2階の平和委員会はそのまま、隣の西側の国民救済会が東側へ。また、不要物品廃棄、屋内配線の拡張整備、各部屋エアコンを設置できるように。誰でも気持ちよく来館できる様にと。と平和委員会のエアコンがイカシタ。でも暑い夏が終わって一息した時でした。来年はどんな状況か？(加)